

インドネシア東カリマンタン州における木材資源の生産と流通

——住民による小規模な生産・流通活動に着目して——

平成 17 年入学
派遣先国：インドネシア
鈴木 遥

キーワード：インドネシア東カリマンタン州，木材資源，地域内流通，生産者の生業変化

研究の背景と目的

本研究は、主要な南洋材の生産地域であるインドネシア東カリマンタン州において、稀少化する森林資源を保全しつつも持続的に利用するための生産・流通プロセスを検討するものである。1960年代ごろから現在に至るまで、同州では盛んに木材資源が生産され国外へ輸出されてきた。同州内における木材資源の生産および流通活動を担ってきたのは、州内にみられる大手木材企業と地域住民による小規模な生産活動である。特に地域住民による小規模な生産活動は、同州内に暮らす住民の木材資源の利用を支える唯一のものである。また木材資源の生産活動は、生産活動に関わる住民にとっての重要な生業である。現在同州では森林資源の稀少化を懸念して、森林保全に関する政策や木材資源の輸出規制などが強化されている。そのため、今後州内における生産・流通活動の規模を縮小することが求められている。そこで本研究では、同州内における木材資源の流通状況と住民による木材資源の生産活動の現状を明らかにするためにフィールドワークを行った。調査期間は2009年2月13日から3月16日である。

フィールドワークの成果

フィールドワークから得られた成果は、以下の三点である。第一に、州内の木材組合の関係者への聞き取り調査より、木材資源に関する政策と生産・流通の現状についてその一端を明かにした。近年、木材資源の生産および流通を規制する州レベルの法律が頻繁に制定されている。新たな法律に対応する生産・流通許可を得ていない活動は厳しく取り締まられている。このため州内の木材資源の生産・流通は減少している。第二に、州都サマリダの木材小売店における聞き取り調査より、小売店への木材資源の流通量や木材資源の生産地域などを明かにした。小売店経営者は、生産者や企業から木材資源を購入している。小売店への流通量は店によって大きな差がみられた。例えば、ひと月あたり約5 m³を購入し販売する店がある一方で、ひと月あたり200 m³を購入し販売する店もあった。また生産地域については、同市内、クタイ・カルタヌガラ県、クタイ・バラット県などである。特徴的な生産場所としては、アブラヤシ農園や採炭場などの開拓地がある。これらの場所では開拓の際に伐採された丸太はその場に放置されている。生産者はこれらの丸太を拾ってきて製材し、売りに出している。第三に、生産地域における生産者への聞き取り調査から、生産者の現状の一端を明かにした。生産者は1970年から1980年頃にその生業を変えていた。現在まで彼らは焼畑を主な生業とし、農閑期にいくつかの副業を持ちながら生計を立ててきた。1970年以前の主な副業は、ロタンの採取や屋根板の生産などであった。1970年～1980年以降これらの副業が、小売店の経営、畑の開墾、木材資源の生産、パルプ会社への就業などへ変化した。40代以下の若い男性の多くは、他よりもの副業極めて高収入を得ることができる木材資源の生産を副業に選んでいた。

今後の課題

今後は、木材資源の生産者および流通者の生計について明らかにする。木材資源の生産・流通活動を規制する法律が制定されるなか、現場で働く生産者および流通者はこの状況に対応してゆかなければならない。そこで、彼らの生計において木材資源の生産・流通活動がどのくらいの重要性を持っているのかについて明らかにしたい。このことから、彼らが安定した収入を得ることができるような新たな木材資源の生産・流通活動の可能性について検討する。



写真1 サマリンダの木材小売店



写真2 生産地域から木材を運ぶ

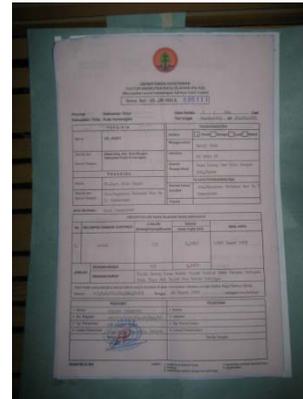


写真3 政府が発行する木材生産の許可証